

短小人

文政八年乙酉小春念三

琴嶺

〔類聚名義抄〕僂僂音義、ヒキナリ

侏儒音朱需、ヒキウト、上タケヒキ、ヒキナリ、下サガシ、ハカセ、ヒキナリ、ヒキウト、

〔同矢〕煙燧

昨戈反、ヒキ 僂 ヒキヒト

〔伊呂波字類抄〕侏儒ヒキヒト

僂僂 短人已上

〔江家次第〕相撲召合略

散更之中侏儒舞等

〔異病草子〕侏儒ときくいで、食をこひて、京都をありく、わらはべしりにつきてわらひのる、見かへりてはらたちいづらん、いよくおこづきわらふ、

〔倭訓栞〕中編十二「せびく。矮人をいへり、又一寸法師といふ、

〔和漢三才圖會〕侏儒一寸法師 侏儒俗云一寸法師

侏儒容貌短小人也、五雜俎云、僂僂氏三尺短之至也、而三尺者時時有之、在閩見一人、年三十餘、首如常人、自項以下纔如數月嬰兒、弱不能行、立髡首、作僧、坐竹籠中、昇之、能敲木魚、誦經、然此乃奇疾也、

〔令義解〕凡〇中 侏儒謂短人也 如此之類、皆為癡疾謂癡疾、廢於人、事、故曰癡疾也、

〔日本書紀〕神代一書曰、〇中 初大己貴神之平國也、行到出雲國五十狹狹之小汀、而且當飲食、是時海上忽有人聲、乃驚而求之、都無所見、頃時有一個少男、以白菝皮為舟、以鷓鴣羽為衣、隨潮水以浮到、大己貴神即取置掌中而翫之、則跳齧其頰、乃怪其物色、遣使白於天神、于時高皇產靈尊聞之、而曰、吾所產兒、凡有一千五百座、其中一兒最惡、不順教養、自指間漏墮者、必彼矣、宜愛而養之、此即少彥名命是也、

〔古事記傳〕十二 少名毘古那神〇註 名義少名は、書紀纂疏に、以形體短小為名とあり、さも有べし、須久那志とは後世にはたゞ多きに對へて、物の數にのみ云ども、古は大に對へて小きことに